

耕平さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

Kouhei@oh-kouhei.org



皆さん、こんにちわ。秋本番、既に晩秋の趣ですね。朝晩は冷え込む日が増えます。くれぐれもご自愛ください。

日常生活の中に登場する仏教用語をお伝えしているかわら版。少しでも読者の皆さんのお役に立てれば幸いです。

先月、「戸がガタピシ鳴る」の「ガタピシ(我他彼此)」も仏教用語ですとお伝えしたところ、「それはおもしろい。他にも擬音で仏教用語のものがあれば教えてほしい」というご要望がありました。努力します。

さて、縁日に来てお参りする皆さんは、それぞれご本尊や境内のお地藏さんに、家内安全や病氣平癒、大願成就などをお祈りしていることと思います。

もちろん、縁日で買い物することが目的であったり、特に用事はないけどウロウロするだけ、気分転換の散歩という方もいることでしょう。

この「ウロウロ」、実は仏教用語です。日常用語としては「はつきりした目的もなく、あつちに行ったり、こっちに来たりする」ことを「ウロウロする」と表現しますが、仏教用語としては「有漏有漏」と書きます。

「漏」とは「煩惱」のこと。つまり「有漏」とは「煩惱がある」という意味。次から次に生まれて心から漏れるもの、すなわち、心を乱す「欲」や「執着」や「煩惱」が有って、気持ちや生き方が定まらないという意味。記憶が曖昧な「ウロ覚え」も同じ語源です。

落ち着きなくウロウロするのは、行先や目的が定まっていなから、あるいは覚りを開いていないからです。

覚りを開くと漏れ出す「煩惱」が無くなるので、覚った状態のことを「無漏(むろ)」と表現します。

この「無漏」は、室町時代の僧、皆さんよくご存じの一休宗純の名前の由来とも関係しています。

幼名は千菊丸。長じて大徳寺の高僧、華叟宗曇(かそううどん)の弟子となり、「洞山三頓」という公案(禅問答)

に対して千菊丸が一句返しました。曰く「有漏路より無漏路へ帰る一休み雨ふらば降れ風ふかば吹け」。この句をきっかけに、師である華叟宗曇から「一休」の号を授けられたそうです。

その一休さん。ある時、弟子が小豆を甘く炊いたところ、一休さんが喜んで食べました。別の弟子が焼いた餅を出したところ、これも一休さんが喜んで食べました。さらに別の弟子が小豆を甘く炊いたものに焼いた餅を入れて出したところ、一休さんは大絶賛して「善き哉(よきかな)」と一声。

この「善き哉」という言葉は仏が弟子を賞賛する時に使われる仏教用語でしたが、一休さんのこの逸話以来、「善き哉」は「善哉(ぜんざい)」という食べ物の名前となりました。

ウロウロしないで、善哉でも食べて、縁日を堪能してください。それでは皆さん、また来月お会いしましょう。

※



大塚耕平と一緒に 2019.11/17 (日) ~ 18 (月)

高野山に行こう!

高野山宿坊に泊まるたっぷり高野山の2日間

残りわずか!

秋深し、皆様と一緒に高野山への1泊旅行を企画しました。大塚耕平が、バスの中や高野山で様々なお話を致します。皆様のご参加をお待ちしております。

日程	令和元年11月17日(日)~18日(月)
宿泊先	蓮華定院 (和歌山県伊都郡高野町 高野山 700)
参加費	お一人様 25,000円を予定(食事4回付き)
集合	覚王山(7時30分)または名古屋駅西口(8時) 予定
解散	名古屋駅西口に17:30頃を予定
定員	30名(定員になり次第、締め切りとさせていただきます)
申込み	裏面の申込書をFAX、あるいは、電話、郵送にてお願いします
主催	舟橋観光株式会社 名古屋市中区千代田3-4-1 tel:052-322-4405

●尚、代金につきましては、ご参加される方に参加費および振り込み先を別途ご案内いたします。

ご不明な点がございましたら、いつでもお問い合わせください

大塚事務所 大塚真理子 tel:052-757-1955